

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2015年3月号>

96号 2015.03.02 配信

学園内は梅の花が満開となり、桜の蕾も膨らみ始めています。3月は旅たちの季節、今年も1,300名余の学生が大学生活に別れを告げ、社会へと旅立っていきます。

卒業後のご活躍と夢への実現を心より応援したいと思います。

■学園だより

3月16日(月) 卒業式 大学院・人間文化学部 (9:30~)
人間社会学部・生活科学部 (13:30~)

☆同窓会では卒業生に皆勤賞を授与します

3月11日(水)~31日(火) 大学 春季休暇

3月28日(土) 第1回オープンキャンパス (10:00~14:00)

☆推薦入試をお考えの方は、是非ご参加ください

■同窓会だより

●3月1日(日) 東京新支部(板橋区・新宿区・杉並区・豊島区・中野区・練馬区)設立総会が学園本部館で開催され、61名が集いました。

支部の名称は「東京都西北6区支部」に決まり、新支部長には、小菌江園香さん(1984年、食物学科卒)が選出されました。

●3月16日(月) 卒業式の後、光葉同窓会入会式を行います。

●小学校教職員ワーキングネットワーク開催のご案内

東京都調布市立調和小学校校長 山中ともえ氏をお迎えして、ご講演をいただき、その後「激励会」を行います。昨年も多数の新教員になられる方々を先輩の同窓生が祝福し、エールを送りました。皆様お誘い合わせの上、是非ご参加くださいますよう心からお待ちしております。

小学校教職員ワーキングネットワーク

日時：2015年3月28日(土) 13:00~15:30

場所：昭和女子大学大学5号館 2階 2S06、2S07教室

第1部 講演会 「これから小学校教員になるみなさまへ」

講師：東京都調布市立調和小学校校長 山中ともえ氏

第2部 激励会

参加費：500円

申込み：E-mail：working@swu.ac.jp FAX：03-3411-4066

(申込み用紙に必要事項をご記入の上、お申込みください)

申込み締切り：2015年3月20日(金)

■広げよう光の葉

森川 宏子さん

1960年 短期大学部国文科卒業

§ 広島支部会のこと

光葉同窓会広島支部は、昨年発足 30 年を迎えました。平成 24 年に横井千香子会長をお迎えして、第 15 回支部会を開催しましたが、そのとき私は第 1 回支部会以来、二度目の幹事と司会をさせて頂きました。第一回支部会は昭和 59 年 4 月でした。

私は、昭和中等部から社会人になるまで、人見楠郎先生にお世話になりましたので、昭和 38 年に結婚して東京から広島へ行くことをご報告にまいりましたら、「広島には樋口さんという素晴らしい先輩がいらっしゃるの、その方と支部会をつくるように」と言われました。そのことがずっと心にありましたが、子育てや介護、主人の海外駐在への帯同などで 20 年の歳月が過ぎてしまい、なかなかお役に立つことができませんでした。

けれども、昭和 59 年に初代支部長を樋口洋子様を引き受けて下さり、そのご尽力と皆様のご協力で第 1 回支部会を 50 人の出席者をお迎えして発足することができました。そのことを人見先生にお伝えすると、「初回に 50 人集めたのか、よくやった」と褒めてくださり、とてもうれしかったことを今でも覚えています。その後、支部長は樋口様から小田慶子様、白銀陽子様に引き継がれ、皆様が今日まで献身的に支部会の発展に尽くしてくださっていることに感謝しています。

§ ライフワークのこと

私が広島に来てから 50 年が経ちました。その間、好きな「朗読」をずっと続けてまいりました。初めは、点字図書館で目の不自由な方のために朗読テープを作っていました。その後、音訳指導者となりボランティア養成講座や朗読教室の講師などを務めてきました。

広島原爆投下から 60 年が過ぎた年に、「国立広島原爆死没者追悼平和祈念館」に「被爆体験記を読み語るプロジェクト」ができました。私が広島で「朗読」を続けてきたのは、きっとこのためだったのではないかと思ひ応募しました。それ以来、広島を訪れる修学旅行生や、依頼を受けての学校訪問、また、ステージ出演など、10 年間、被爆体験記の朗読ボランティアとして活動を続けています。

直接被曝の方が書かれた文章は、その時の真実の描写や心情が書かれています。原爆被爆者の方が「二度と自分と同じ体験を次世代の人々にさせてはならない」という思いから書き残して下さった体験記を少しでも多くの人たちにお伝えできるように心を込めて読ませていただいています。その朗読を聞いて下さった一人一人が、被爆の実相を知り、平和について考え、そして、どうすれば核廃絶ができるかを考えていただくきっかけになればうれしく思います。被爆体験者が少なくなっていく今、私にできることは、「朗読」を通して、被爆体験を風化させることなく次世代の若者に継承していくことであると思ひます。そして、子供や孫たちの未来に核兵器の無い平和な世界が実現できるように、この活動を続けていきたいと思ひます。

最後になりましたが、母校のますますのご発展をお祈り申し上げます。

End